

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

令和 7 年度
編入学 専門科目試験問題
(100 点)
(60 分)

千葉県立保健医療大学 健康科学部
看護学科

注意事項

1. 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は、表紙を除き 5 頁である。
3. 解答はすべて解答用紙に記載すること。
4. 問題冊子及び解答用紙の印刷が不鮮明などの場合には、手を挙げて監督員に知らせること。
5. 解答は、必ず黒の鉛筆（シャープペンシルも可）で解答用紙に記入すること。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
7. 不正行為に対しては厳正に対処する。

【問題 1】以下の文章について、空欄 1 ～ 20 にあてはまる適切な語句または数字を入れなさい。

1. オレムの看護論は、セルフケア理論、(1)、看護システム論の 3 つの理論から構成され、それぞれが相互に関連し合い理論を構築している。
2. くも膜下出血の成因の中で全体の約 80% を占めるのは (2) である。
3. (3) は、肘関節を伸展させる筋肉で、尺骨肘頭に停止している。
4. 酸塩基平衡の調節は、腎臓と肺で行なわれている。腎臓では、水素イオンを排泄し、(4) を再吸収して調節している。
5. フィンクの危機モデルは、人が危機に陥った段階から望ましい適応をするまでの連続的なプロセスを説明しており、(5)、防御的退行、承認、適応の順に、4 つの段階で示されている。
6. 細菌が体内に初めて侵入したときに最初に生産される免疫グロブリンは、Ig (6) である。
7. 新生児の頬部をなでると、刺激のあった方を向き、口を開ける反射のことを (7) 反射という。
8. (8) とは、制度・分野ごとの縦割りや支え手・受け手という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体がわが事として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて丸ごとつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創る社会を意味する。
9. 生体の恒常性を維持するために細胞が自発的に死ぬしくみを (9) という。
10. (10) 症候群は、抗うつ薬、特に SSRI と呼ばれる薬を服用中に生じる有害反応で、神経・筋症状、自律神経症状、精神症状の変化がみられる。
11. 流行性結膜炎の原因ウイルスは、(11) である。
12. 医療倫理原則のうち、利益と負担を公平に配分することを (12) という。
13. 骨盤内臓神経の末端から放出されるアセチルコリンによって刺激されて収縮するのは、膀胱壁の (13) である。

14. 双極性障害において、典型的な躁状態とうつ状態を交互に繰り返し、仕事や実生活、人間関係に大きな支障が生じ、入院が必要となることもあるのは（ 14 ）型である。
15. 授乳刺激によって分泌され、子宮復古を促進するホルモンは（ 15 ）である。
16. 脂質異常症治療薬であるスタチンは、重篤な有害事象として（ 16 ）が起こりうる。
17. 児童虐待は、身体的虐待、性的虐待、（ 17 ）、ネグレクトの4つに分類される。
18. 急性骨髄性白血病の検査所見では、白血球分画に（ 18 ）を認める。
19. New York Heart Association（NYHA）分類で、安静時は無症状であるが、通常以下の身体活動で、疲労、呼吸困難、動悸、狭心痛を来すのは（ 19 ）度である。
20. 介護保険法により要介護状態区分の審査判定を行うのは、市町村に設置された（ 20 ）である。

【問題 2】以下の事例を読み、問 1 ～ 7 に答えなさい。

A ちゃん（1 歳 2 か月、男児）は、両親と 4 歳 6 か月の姉と 4 人で暮らしている。母は育児休業中であり、A ちゃんは保育園には通園していない。A ちゃんは 5 日前に発熱および不定形の発疹が腹部に出現したため、かかりつけ医を受診したところ、ウイルス性感染が疑われ、解熱剤が処方された。帰宅後も発熱が続き、発疹が全身に広がったため再度かかりつけ医を受診したところ、川崎病と診断され、総合病院に入院した。入院後に、アスピリンの内服と γ -グロブリン製剤の点滴静脈内注射が開始された。

問1 川崎病の急性期における主要症状で、A ちゃんに出現している上記の症状以外を一つ記載しなさい。

問2 川崎病における冠動脈病変はどのような病変が起こりやすいか、一つ記載しなさい。

問3 入院時の A ちゃんの冠動脈病変を検査するために、最も適した検査方法を記載しなさい。

問4 問 3 の検査をするために検査室に入室したところ、A ちゃんは大泣きをして嫌がっている。A ちゃんの検査時の看護について、一つ記述しなさい。

問5 γ -グロブリン製剤開始 10 分後に A ちゃんは全身にかゆみを訴え、膨隆疹が出現した。A ちゃんに起こっている現象について記載しなさい。

問6 A ちゃんはアスピリンの内服を嫌がり、口から少量出してしまった。A ちゃんへの与薬方法の工夫を、1 つ記述しなさい。

問7 A ちゃんに冠動脈病変は認められず、退院することになった。A ちゃんと家族への退院指導において、指導する内容とその根拠を 2 つ記述しなさい。

【問題3】 以下の事例を読み、問1～4に答えなさい。

Bさん（52歳 女性）は、身長156cm 体重68kgで、30歳代から百貨店で日用雑貨の売り場担当をしている。2年くらい前から右股関節痛を自覚し、整形外科で右変形性股関節症と診断された。痛みは当初、鎮痛剤の内服で緩和していたが、3ヶ月前から仕事にも支障をきたすようになり、手術をすることになった。入院前の外来で自己血輸血の採血を行い、昨日入院し、本日、全身麻酔による右人工股関節置換術を受けている。

問1 Bさんが自己血輸血の採血を入院前に行った理由を説明しなさい。

問2 手術は大きな問題なく終了し、術後1日目は順調な経過であった。術後2日目、膀胱留置カテーテルを抜去し、それ以後は看護師の介助があればトイレは歩いていくことが許可された。抗生物質以外の点滴は終了となったが、点滴ラインを保持するため、生理食塩水でのフラッシュ*を行って管理することとなった。普通食が開始され、ほぼ全量摂取した。痛みは「右脚を動かすと少し痛い」とのことであった。この時期のBさんの安全を考慮した看護について、箇条書きで2つ記載し、その理由をそれぞれ簡潔に記載しなさい。

*フラッシュ：一定期間、針の差し替えをせずに点滴ルートを保存するため、生理食塩水を急速に注入してカテーテル内の薬液を押し出し、かつカテーテル内を生理食塩水で満たして血栓で閉塞しないように管理すること。

問3 術後7日目、Bさんは38.0度前後の発熱がみられる。この発熱の原因として最も危惧されることとその理由を書きなさい。

問4 Bさんは退院することになった。今後のBさんの生活について指導することを1つあげ、その理由を記載しなさい。

【問題4】以下の事例を読み、問1～5に答えなさい。

Cさん（83歳、女性）は、5年前に夫を亡くした後、一人暮らしをしており、近県に住む息子が時々様子を見に来ていた。Cさんは料理が得意で、息子が来ると料理を作って一緒に食べることもあった。3年ほど前から、料理の途中で手が止まりそのあとにどうしたらよいかCさんが戸惑う様子が見られるようになり、心配した息子が一緒に病院を受診したところアルツハイマー型認知症と診断された。認知症の診断後も在宅サービスを利用して一人暮らしを続けていたが、2年ほど前から日課にしていた朝晩の散歩に出かけないことが増えてきた。1年前の夏は脱水で入院し、半年ほど前からは食事摂取量が減少し体重減少がみられるようになっている。Cさんは、身長150cm、現在の体重は40kgであり、この3か月での体重減少率は7%を超えた。

問1 Cさんにみられている認知機能障害の種類は何か、記載しなさい。

問2 Cさんが脱水を起こした原因と考えられるものを2つ記述しなさい。

問3 CさんのBMIを算出しなさい。ただし、小数点以下の数値が得られた場合は、小数点以下第二位を四捨五入すること。

問4 CさんをMNA-SF（Mini-Nutritional Assessment Short Form）で評価したところ4ポイントであった。MNA-SFについて説明し、さらに、Cさんの状態を記述しなさい。

問5 Cさんの食事摂取量低下の要因と考えられるものを3つ記述しなさい。